

報告

鶴見大学所蔵〈逸見梅栄仏教美術コレクション〉

の保存管理システムについて

——ガラス乾板の保存処理と画像処理及びデータファイレリングシステム——

永田 勝久

仏教美術に多大な業績を残された逸見梅栄先生は、先生の略年譜にみられるように、昭和38年4月から昭和52年11月に至る長きにわたり本学に於て仏教美術の講義をなされていた。また、昭和51年4月からは本山の宝物殿館長も務められた。先生がお亡くなりになられたのち、遺族のかたより先生が長年集められた研究資料及び蔵書を寄贈したいとの申し出があった。本学では直ちに図書館に逸見文庫として整理保管した。しかしながら先生が幾度となくインド、中国などにわたり資料を集めた中に写真資料（ガラス乾板など）が多数あり、これが未整理となっていた。

逸見梅栄先生略年譜

○明治24年5月11日 山形県西村山郡河北町に父知洞、母トリの長男として出生

○大正6年 東京帝国大学文学部梵文学科卒業

○大正10年より3年間、曹洞宗留学生として印度に滞在、その間ベナレス大学校外生として梵語を学習、後カルカッタに移り美術史を学びながら博物館の見学、仏蹟の調査、美術資料の蒐集につとめる

○大正14年—昭和18年 立正大学講師

○昭和4年より3年間、有栖川宮記念奨学金を受け印度仏教美術の研究に専念す

○昭和5年—7年 高野山大学教授

○昭和7年—15年 高野山大学非常勤講師

○昭和9年 印度礼拝像の形式研究により東京帝国大学より文学博士の学位を受く

○昭和10年—11年 高松宮殿下に仏教に就いて御進講す

○昭和10年—16年 駒沢大学専任教授

○昭和11年—21年 多摩美術大学教授

○昭和14年より3年間、再び有栖川宮記念奨学金を受けて満州、北支那、内蒙古を3回に亘り旅し、ラマ教美術資料を蒐集、印度の後期密教像との関係せんとつとめる

○昭和19年—25年 梅檀学院院长

○昭和26年より駒沢大学、大学院兼任教授

○昭和38年4月—52年11月 鶴見大学非常勤講師

○昭和42年 学術功労者として勲三等瑞宝章を賜る

○昭和44年 印度カルカッタ芸術協会より、名誉記念章を受く

○昭和45年3月 山形県河北町名誉町民となる

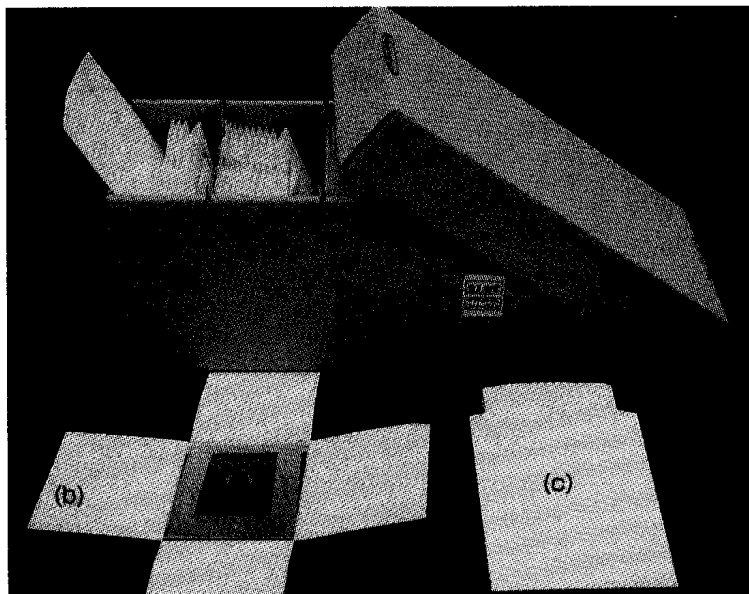


図-1 ガラス乾板の保存処理

○昭和51年4月―52年11月 大本山総持寺宝物殿館長

○昭和52年11月14日午前5時 心筋梗塞のため逝去。享年86才

今年度から仏教文化研究所の仕事として調査、整理することになった。まずガラス乾板にどのようなものが写されているかを調べるために、全てについて注意深く密着焼付けを行って整理した。その結果、ガラス乾板の数が約一六〇〇枚余りあり、その中には現在失われていると思われるような映像も認められた。また、保存状態が悪く早急に保存処置を施さなければならぬガラス乾板も多数あった。

(1) ガラス乾板の保存処理

ガラス乾板並びに写真、フィルムなどの保存処理方法はISO (International Standard Organization) 規格にて細部にわたって詳しく規定されているが、今回ガラス乾板の膜面については何も処理せず、図1に示すような方法で保存処置を行った。

ガラス乾板(a)をガラス乾板の厚さより僅かに厚いマチのあるガラスプレートホルダー(b)につつま、(c)のサムカットエンベロップにいれ、(d)のストレッチボックスに収納した。

ガラスプレートホルダーにマチがあるのは、ガラス乾板の膜面を傷つけないためである。また、酸性紙の場合はガラス乾板の膜面を劣化させるため、ガラスプレートホルダー、サムカットエンベロップ、ストレッチ

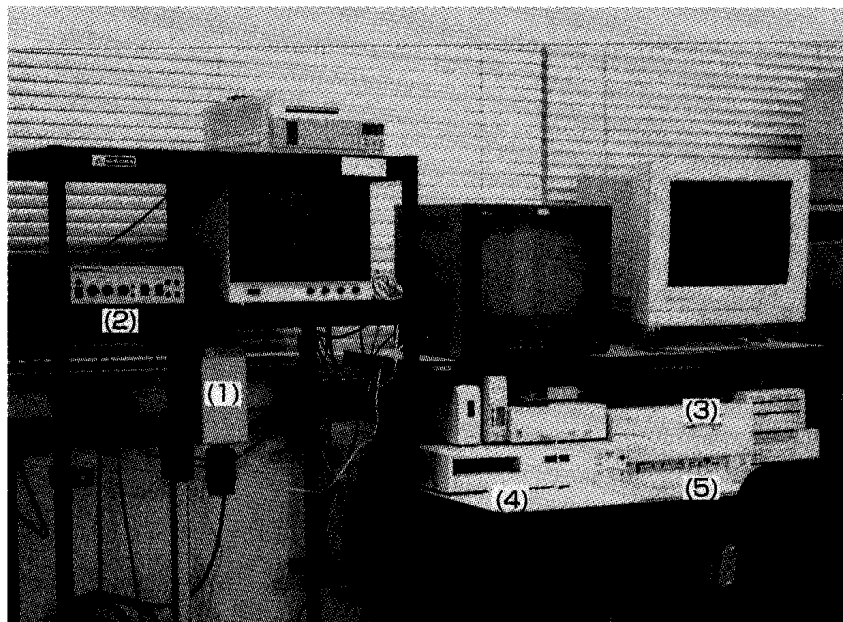
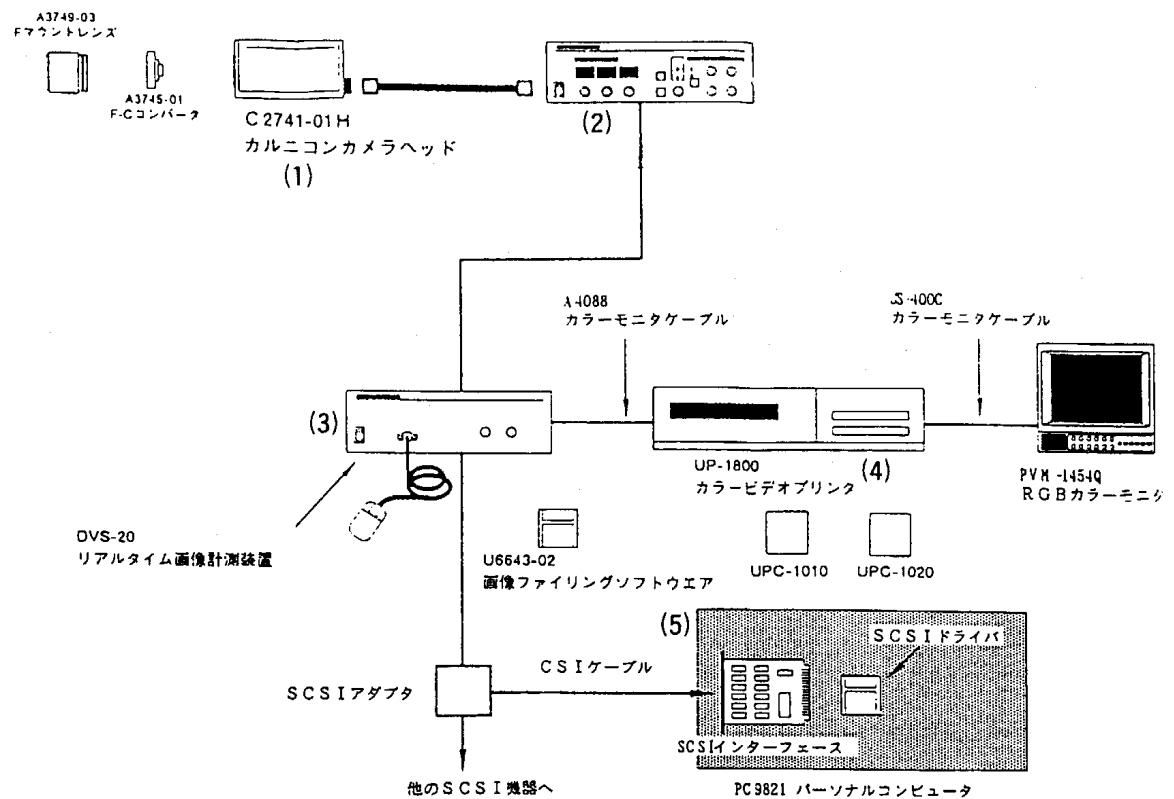


図-2 画像処理及びデータファイリングシステム

ジボックスの全て中性紙を使用した物である。ストレージボックスに収納したガラス乾板は恒温恒湿に保たれている図書館の貴重書室にて保管することにした。

(2) 画像処理及びデータファイリングシステム

貴重なガラス乾板資料は温度、湿度の影響を受け易く、調査研究の度に外気に触れることは好ましくない。また、整理するためにガラス乾板の密着焼付けを行ったが、その画像は全てが満足いくものではなかった。そのため今回リアルタイム画像改善装置及びパーソナルコンピュータを用いた高精度な画像処理、画像ファイリングシステムを導入した。このシステムは必要に応じていつでも画像を取り出すことが可能である。そのシステムを図2に示した。

このシステムは、まずビデオカメラや赤外線カメラで捕らえた画像を、リアルタイム画像改善装置にて画像の加算、減算、コントラストの増強など画質をリアルタイムで改善し、さらにパーソナルコンピュータを用いて解像度を高め、高精度な画像処理を行い、画像をファイリングをする。また必要に応じてカラービデオプリンタにて画像をプリントすることも可能である。現在ガラス乾板資料の画像データをファイリング中である。